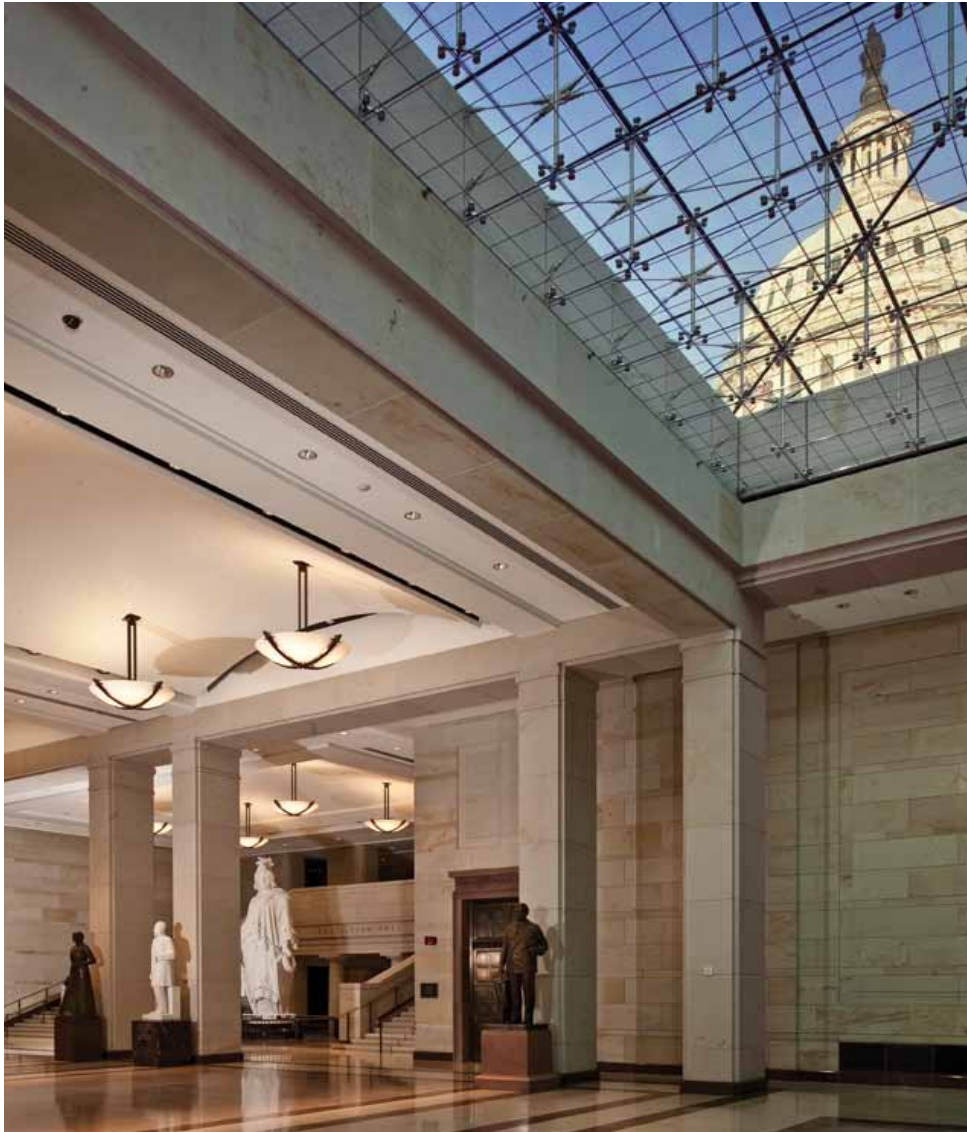


奴隷解放ホール



U.S. CAPITOL
www.visittbecapitol.gov

連邦議事堂は、月曜日～土曜日の午前8時30分から午後4時30まで公開されています。感謝祭の日、クリスマス、1月1日、大統領就任式の日は閉館されます。

議事堂ビジターセンターの中心である奴隷解放ホールは、連邦議会議事堂建立を助けた奴隷労働者、職工を称えるために連邦議会により命名されました。

2007年12月18日、連邦議会は、議会議事堂の建立を助けた奴隷労働者の功労を称える議事堂ビジターセンターの中央の空間を「奴隷解放ホール」と命名する法案を承認しました。奴隷解放ホールは、議事堂の観光に来る訪問者のための中心的な集合場所です。

議事堂の建設が1793年に始まった時には、ワシントンDCは砂利道と少数の下宿屋以外には宿舎も殆どない片田舎にすぎませんでした。この出来たばかりの街で技能労働者を探したり、この街で働かせたりするのは難しいことでした。首都が1800年にフィラデルフィアから新たにワシントンに移転した

時、連邦議会受け入れの態勢を整えるために、連邦政府は奴隷労働に大きく依存しました。

所有者から借用された奴隷労働者は、建設作業のほぼ全ての段階に関与しました。樹木を伐採し、整地作業をし、煉瓦を焼き、石を切り出してそれを建設予定地に運搬しました。建物を建立するために、彼らは粘土で形を作り、材木を鋸でひき、石工と協力して働きました。1860年代初期に、フィリップ・リードという奴隷職工が議事堂ドームの上の自由の像を鑄造するのを助けました。





奴隷解放ホールの大天井の大天窓を通して、訪問者は議事堂ドームの素晴らしい景観を眺めることができ、内部空間は自然光で満たされています。

人権運動指導者に敬意を表して

抑圧と戦った2人の人の胸像—奴隷制度廃止論者で女性権利推進論者ソジャーナ・トゥルースとスウェーデン人道主義者ラウル・ワレンバーグの胸像が、奴隷解放ホールの西側にある自由の像の石膏模型の近くに置かれています。

ソジャーナ・トゥルースの青銅製の半身像は、連邦議会議事堂でアフリカ系米国人女性を称える最初の彫像です。

ラウル・ワレンバーグはスウェーデンの外交官で、第2次世界大戦中に在ブダペストのスウェーデン大使館を通じて、ナチス占領軍とハンガリー人協力者により脅かされていた何万人ものユダヤ人の命を助きました。ミリ・マーゴリン作のワレンバーグの胸像は1995年に受け入れられました。



ソジャーナ・トゥルースは1797年に奴隷として生まれ、イザベラ・ボームフリーと命名されました。彼女は13人の子供の1人として、最初は9歳の頃に競売で売られました。30歳になるまでに、彼女は5人の所有者により奴隷として使われました。ニューヨーク州が奴隷の漸進的な解放を完了する1年前の1826年、所有者は勤勉さへの報償として彼女に自由を与える約束をしていたのですが、その約束に背きました。彼女は勇敢にも、幼子連れて逃げ出し自由の身になりました。1843年に、イザベラは宗教的信念から名前をソジャーナ・トゥルースと改名し、各地を訪問して奴隷制度廃止と女性の権利について演説する活動を開始しました。

手かせ足かせをされた奴隷がペンシルバニア通りを歩いてゆきます。1820年代に中央ドーム部分が建立される前の連邦議会議事堂が背景に見えます。



左側は解放された奴隷であり奴隷制度廃止と女性の権利についての情熱的な弁舌家の胸像です。右側はソジャーナ・トゥルースですが、そのアーティスト・レーン作の胸像の除幕式は、2009年に奴隷解放ホールで行われました。



建築の特徴

議事堂ビジターセンターは最初から、議事堂の拡張部分として考案されました。ビジターセンター建立に使用された建材は、この歴史的な建造物全体の色彩、材質、材料に適合するものが選ばれました。ビジターセンターの中で継続性が最も顕著なのは奴隷解放ホールです。床から36フィートもの高さがある奴隷解放ホールの壁と柱は、議事堂に見られる砂岩に似た多様な色彩と材質の砂岩の厚板で覆われています。



展示ホールの入り口では、訪問客は、議事堂ロタンダの真下の空間にある議事堂地下室にある40本のドーリス式円柱の模様にマッチする装飾用の葉模様の細工を上端に施した2本の円柱を見ることができます。

奴隷解放ホールの床面は、テネシー州の石切り場から運ばれた淡紅色と赤ワイン色の大理石板で強調されています。同じ石切り場から、1850年代に建立された議事堂拡張部分の装飾用大理石の多くが供給されました。

訪問者に歴史的な議事堂との繋がりを最も感じさせるのは、おそらく奴隷解放ホールの最も近代的な特徴である2つの大天窓でしょう。これらの天窓は各々幅30フィート、長さ70フィートで、内部の空間を自然光で満たしつつ、荘厳な議事堂ドームの素晴らしい景観を見せてくれます。

奴隷解放ホールの床は2万平方フィートの面積で、議事堂ロタンダの7200平方フィートの円形の床の3倍近い広さを誇っています。



自由の像

議事堂ドームの頂点にある自由の像は、古典的な女性の姿を象っています。女性の右手はさやに納められた刀の柄に置かれており、左手は勝利を象徴する月桂樹の冠と米国の盾を掴んでいます。「U.S.」という字が刻まれたブローチでふさ飾りの付いたローブを留めています。

自由の像の石膏模型の原物が復元され、訪問者は、議事堂ビジターセンターの奴隷解放ホールを中心として、現在その寓話的人物の姿を間近に見ることができます。模型は高さ19.5フィート、重さ約1万3千ポンドです。

1857年、ローマで活動していた米国人彫刻家トーマス・クラウフォードが自由の像の石膏模型を完成させました。クラウフォードの死後、別の米国人彫刻家クラーク・ミルズがワシントンDCにあった彼の鋳物工場で銅像を鋳造するために雇われました。石膏模型を組み立てた労働者が法外な追加報酬の支払いがない限り模型の分解を拒否すると言った時、クラーク・ミルズが所有していた奴隷職工フィリップ・リードが模型を各部分に分解する方法を見つけ出し、それを鋳物工場に運んで型を取れるようにしました。

リードはそこで、鋳型の下に火を燃やし続ける責任を任せられ、石膏模型の部分部分が青銅で鋳造される作業で他の奴隷労働者と協力しました。1862年に完成した銅像が議事堂の敷地に運び込まれる直前に、フィリップ・リードは奴隷の身分から解放されました。1863年12月2日にドームの上に銅像の最後の部分が組み込まれた時、彼は自由人でした。

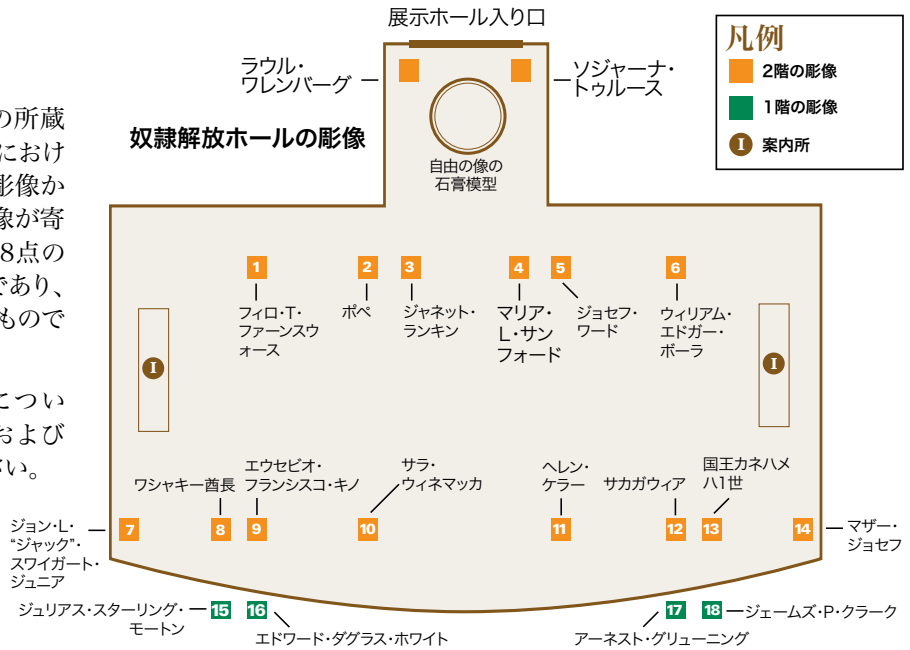


自由の像の石膏模型は、奴隷解放ホールの西側の目立つ場所に立っています。

奴隷解放ホールの彫像

連邦議会議事堂の国立彫像ホールの所蔵品は、各州がそれぞれの州の歴史における傑出した人物を称えるために寄贈した彫像から成り立っています。各州からは2点の彫像が寄贈されています。奴隷解放ホールにある18点の彫像はごく最近寄贈された彫像の一部であり、国の多様性と国民による貢献を表現するものでもあります。

奴隷解放ホールと連邦議会議事堂についての詳しい情報は、www.aoc.govおよびwww.visitthecapitol.govをご参照ください。



国立彫像ホールに所蔵の彫像で奴隷解放ホールに陳列されているもの

オレンジ色で表示された日付は彫像が所蔵品に加えられた年を示しています。

1 フィロ・T・ファーンズウォース(1906~1971年)ユタ州、ジェームズ・R・アヴァティ作の銅像、1990年。発明家。初期のテレビジョン・システムを考案した功績で「テレビの父」と呼ばれる。高校時代にテレビを最初に思いついた。初期のテレビには彼の100件の特許が活用された。赤外線夜間照明、電子顕微鏡、保育器、胃カメラ、天体望遠鏡、レーダーの開発に使用された発明に対して160件以上の特許を取得。彫像は1920年代に彼が発明した電子カメラの撮像管を手に持っている姿。



2 ポベ(1630年頃~1692年以前)ニューメキシコ州、クリフ・フラグア作の大理石像、2005年。プエブロインディアンの宗教的、精神的指導者。現在のニューメキシコ州に当るサンファン・プエブロに生まれる。プエブロ族の文化存続を保証することを助け、米国南西部の歴史に残る1680年のスペイン人に対するプエブロ族反乱の組織者。彫像は反乱のタイミング調整に使われた熊の呪物と結び目のあるロープを持っている姿。彫像にはプエブロ族文化の象徴である鍋が入っている。



3 ジャネット・ランキン(1880~1973年)モンタナ州、テリー・ミンモー作の銅像、1985年。ソーシャルワーカー、講演者、1917~1919年と1941~1943年に在任した連邦下院議員。連邦議会議員に選出された最初の女性。平和と女性の権利のために活動した著名なロビイスト。米国の第1次、第2次世界大戦



への参戦に反対票を投じた。「女性として出征することはできないし…他の人を戦争に送ることも拒否する」と述べて1941年の対日宣戦布告に反対した唯一の下院議員。

4 マリア・L・サンフォード(1836~1920年)ミネソタ州、エヴェリン・レイモンド作の銅像、1958年。教育者であり女性の権利擁護者。婦人参政権とアフリカ系米国人教育を支持し、成人教育とPTA(父母と教師の会)の概念を開拓。コネチカット師範学校を卒業。スワースモア・カレッジで歴史学教授。ミネソタ大学で20年間教鞭を取った。大学教授になった最初の女性の1人。



5 ジョセフ・ワード(1838~1889年)サウスダコタ州、ブルーノ・ベグ作の大理石像、1963年。宣教師であり教育者。サウスダコタ州昇格運動の指導者。ダコタ準州の準州都ヤンクトンで牧師に任命を受ける。ヤンクトン・アカデミーを開校し、ヤンクトン・カレッジ創設に重要な役割を果たした。州憲法を起草し、州のモットーと州標章の説明を作成した。

6 ウィリアム・エドガー・ボーラ(1865~1940年)アイダホ州、ブライアント・ベーカー作の銅像、1947年。弁護士、1907~1940年連邦上院議員。上院教育労働委員会の委員長として労働省および児童局を創設する法案を提案。上院外交委員長。「アイダホの獅子」として知られる傑出した雄弁家。



7 ジョン・L・“ジャック”・スワイガート・ジュニア(1931～1982年)コロラド州、ジョージ・マーク・ランディーン作の銅像、1997年。パイロットであり宇宙飛行士。朝鮮戦争では空軍戦闘機パイロットおよび試験パイロット。1970年の米航空宇宙局(NASA)アポロ13号有人月飛行計画の乗組員3人のうちの1人だったが、酸素タンクの爆発により計画は中止された。乗組員は宇宙空間で約6日間を過ごした。下院科学技術委員会の補佐役指導者。1982年に下院議員に選出されたが、就任1週間前に死亡した。



8 ワシヤキー酋長(1800年頃～1900年)ワイオミング州、ディブ・マクギャリー作の銅像、2000年。ショショーニー族の戦士でありスポークスマン。フランス語、英語のほか、アメリカ先住民諸言語を流暢に話した。ショショーニー族の複数集団を統一した。ワイオミング州の300万エーカー以上の土地をショショーニー族の居住地として保全・保証するため米陸軍と交渉。米軍の軍装の礼で葬儀が挙行された。着衣の紋様は細密に着色されている。



9 エウセビオ・フランシスコ・キノ(1645～1711年)アリゾナ州、スザンヌ・シルバークルイズ作の銅像、1965年。宣教師、探検家、

地図製作者。イタリア生まれのイエズス会修道士。メキシコと南カリフォルニア探検のための遠征隊を指揮し、アリゾナ州南部のピマ族先住民と協力した。カリフォルニアとアリゾナに伝道所、牧場、道路を建設した。彫像は、星の位置からの緯度算出に使用されたアストロラーベ(天体観測儀)を手に持っている姿。



10 サラ・ウィネマッカ(1844～1891年)ネバダ州、ベンジャミン・ビクター作の銅像、2005年。通訳者、教育者、著作家。自分が所属したパイユート族と米国陸軍との間の交渉を担当した。アメリカ先住民児童向けの学校



を開始し、先住民言語と英語の両方で教えた。その自叙伝「パイユート族の中での暮らし: その間違いと主張」は先住民アメリカン女性性の著作による最初の著書だった。彫像はパイユート語の自分の名前であるシェル・フラワーを手に持った姿。

11 ヘレン・ケラー(1880～1968年)アラバマ州、エドワード・フラブカ作の銅像、2009年。著作家、講演者、身体障害者のためやその他の社会目的のための活動家。幼児期の病により視力と聴力を失った。手話、弁論、ブライユ点字法を習得。盲目、聾啞者として初めて大学を卒業。「世界に対するアメリカの親善大使」として知られた。彫像は、初めて「水」を意味する手話を理解し、意思疎通を学んだアラバマ州タスカンビアの自宅にあった井戸ポンプの傍にいる7歳の子供としての姿。



議事堂ビジターセンターの他の彫像

国立彫像ホール所蔵品の以下の6点の彫像は、議事堂ビジターセンターの奴隷解放ホール以外の場所に配置されています。この彫像をご覧になりたい場合には、訪問者補助員に申し出てください。

ジョン・M・クレイトン(1796～1856年)デラウェア州、ブライアント・ペーカー作の大理石像、1934年。弁護士、州議会議員、1829～1836年連邦上院議員、州最高裁判所長官。

ジェームズ・Z・ジョージ(1826～1897年)ミシシッピ州、オーガスタス・ルークマン作の銅像、1931年。兵士、弁護士、州最高裁判事、1881～1897年連邦上院議員。米墨戦争で従軍。ミシシッピ州最高裁判所判事に任命され、同長官を経て、連邦上院議員に選出。

ウェイド・ハンプトン(1818～1902年)サウスカロライナ州、フレデリック・W・ラックスタル作の大理石像、1929年。農場主、州議会議員、州知事、1879～1891年連邦上院議員、連邦鉄道委員。南軍の英雄で、歩兵中隊、騎兵中隊、砲兵中隊を組織。ゲティスバーグの戦いに参加。騎兵部隊において中將の地位まで昇り詰めた。

エフライム・マクドウェル(1771～1830年)ケンタッキー州、チャールズ・H・ニーハウス作の銅像、1929年。外科医でありセンター・カレッジ創設者。ケンタッキー州憲法起草を助けた。開腹手術の技術における開拓者。卵巣腫瘍除去手術に初めて成功。

ジョン・マクロリン博士(1784～1857年)オレゴン州、ジフォード・プロクター作の銅像、1953年。スベリオル湖の英国の北西会社毛皮交易所の医師。ハドソン湾会社との合併において重要な役割を果たした。アメリカ人開拓者に対する寛大な支援のゆえに「オレゴンの父」と呼ばれた。

E・カービー・スミス大将(1824～1893年)フロリダ州、C・エイドリアン・ピラーズ作の銅像、1922年。兵士、実業家、教育者。米国陸軍を辞任し、南軍に入隊。南軍で生き残った最後の大将。電報会社の社長、大学学長、数学教授。

12 サカガウィア(1788年頃～1812年)ノースダコタ州、銅像、レオナード・クルネルの1910年作の彫像の複製、2003年。通訳者でありガイド。1805年に、生まれたばかりの息子を抱え、現在のノースダコタ州で、メリウエザー・ルイスとウィリアム・クラークが率いた北西部遠征隊を補助した。彼女の存在は、諸部族に対して遠征が平和的なものであることを示した。旅行者、翻訳家、外交官、妻、母として崇められている。所属していたヒダーツァ族からサカガウィアまたは「鳥の女」という名前を与えられた。



13 国王カメハメハ1世(1758年頃～1819年)ハワイ州、青銅と金の彫像、トーマス・R・グルドの1879年作の彫像の複製、1969年。戦士であり国王。ハワイの人の居住する全島々を自らの統治下に統合。貿易を奨励し、ハワイを世界に開国した。カメハメハ大王とも呼ばれる。彫像は、中折帽とハワイの鳥マモの羽毛からできた外套を含む金箔のハワイ王室の正装を着た姿。





14 マザー・ジョセフ(1823～1902年)ワシントン州、フェリクス・W・デウェルドン作の銅像、1980年。宣教師であり建築家。カナダのモントリオール近郊でエスター・パリソーとして生まれ、20歳でカトリック修道女になった。宣教師を率いて、将来ワシントン州になる地域を含む米太平洋岸北西地域に行った。11軒の病院、7校のアカデミー、5校の先住アメリカインディアン用学校、2軒の孤児院のための資金を集め、その設計を行い、建設を監督した。台座には製図器具と彼女の手懸けた建物の画像が示されている。

校のアカデミー、5校の先住アメリカインディアン用学校、2軒の孤児院のための資金を集め、その設計を行い、建設を監督した。台座には製図器具と彼女の手懸けた建物の画像が示されている。



15 ジュリアス・スターリング・モートン(1832～1902年)ネブラスカ州、ルドルフ・エヴァンズ作の銅像、1937年。農業者、議員、閣僚。彼の誕生日の4月22日に祝賀される「樹木の日(アーバーデー)」の創始者。米領土になる前のネブラスカの領有権を主張した。北西準州議会の議員で北西準州の準州

務長官に任命された。クリーブランド大統領の農務長官を務めた。何巻もの図版入りネブラスカ州歴史の編集を開始した。彫像は基礎には、アーバーデーを象徴する木の幹、苗木、剪定ばさみ、シャベルが象られている。

16 エドワード・ダグラス・ホワイト(1845～1921年)ルイジアナ州、アーサー・C・モーガン作の銅像、1955年。弁護士、州議会議員、1891～94年に連邦上院議員、1894～1921年連邦最高裁判所判事、1910～1921年に連邦最高裁判所長官。16歳で南軍に従軍したが、後に最高裁判事としてアフリカ系米国人の投票権を支持した。クリーブランド大統領により最高裁判事に指名された。

ルイジアナ州、アーサー・C・モーガン作の銅像、1955年。弁護士、州議会議員、1891～94年に連邦上院議員、1894～1921年連邦最高裁判所判事、1910～1921年に連邦最高裁判所長官。16歳で南軍に従軍したが、後に最高裁判事としてアフリカ系米国人の投票権を支持した。クリーブランド大統領により最高裁判事に指名された。



17 アーネスト・グリューニング(1886～1974年)アラスカ州、ジョージ・アンソニセン作の銅像、1977年。ジャーナリスト、アラスカ準州知事、1959～1969年連邦上院議員。医学校を卒業したが、ボストン、ニューヨークで報道記者、編集員、編集主幹になった。アラスカ国際高速道路委員会の委員に任命され、1939年から1953年に退職するまで知事を務めた。アラスカ州選出の最初の2人の連邦上院議員の1人。「アラスカ州昇格の父」と呼ばれる。

18 ジェームズ・P・クラーク(1854～1916年)アーカンソー州、ボンベオ・コビニ作の大理石像、1921年。弁護士、州議会議員、州司法長官、知事、1903～1916年連邦上院議員。2期にわたり上院仮議長に選ばれた。パナマ河プロジェクト、フィリピン独立を支持。連邦上院商業委員会の委員長として、雇用者責任と労働者災害補償の法案承認を助けた。

